

地方 紀民 行鉄

誕生から約40年。

豊富な緑を残したまま、

今も成長を続ける「ニュータウン」。

街と共に生まれた小さな電車が、

その成長を支えている。

山万株式会社鉄道事業部



愛

用している手帳には、全国の主な都市部の路線図がついている。初めてその路線図を見たとき、東京都心部・上野駅辺りから右方向、成田空港の方に視線を移していった。ふと目に留まった小さな構内。京成電鉄本線のユーカリが丘駅から延びる「棒付きアメ」のような形の路線。「なんだろう……」と思っていた、その路線こそ、不動産会社が開発するニュータウンの住民のために作り、運営している世にも珍しい電車、山万ユーカリが丘線だ。

あつという間に

京成電鉄本線「ユーカリが丘」に連絡する山万ユーカリが丘線の発着駅は、こちらも「ユーカリが丘」。3階くらいの高さにあるホームからは、高架の軌道が駅周辺の商業ビルや高層マンションの間を延びていくのが見える。街が造られ、電車の運行が始まってから40年近くが過ぎているというけれど、中空を滑るように電車が走ってくるさまは、子どもの頃に想像した「未来の街」のイメージに近い。クリーム色の3両編成の電車の愛称は、「アレア号」。ゴムのタイヤで走る新交通システムのせいかな、ガタンゴトンというよりボンボンといった音とともに走り出す。

車窓に広がるマンションや家並みに、「さすがはニュータウン！」と思ったのは、棒付きアメ状の路線の棒にあたる部分、電車が公園駅に着くまで。アメの部分に入ると一気に緑が増えてくる。びしっと区画整理された家々が一面に連なる光景を予想していたけれど、どうやら違っていたらしい。

ど、どうやら違っていたらしい。

街並みを確認しようと思窓にかじりつくも、土地に起伏があるのが、高架だった軌道は次第に地面と同じ高さになり、家々よりも低くなり、ついにはトンネルに突入。再び視界が高くなって高架になってきたところで「次は公園、公園です」とアナウンスが入る。あつという間に1周、アメ部分は走破！ユーカリが丘駅に戻ってしまう前に、公園駅で急ぎ下車。

ニュータウンを歩いて見学

高架になった公園駅の眼下には、名前のとおり広々とした公園が広がる。ひとまず駅を出て公園のベンチで山万株式会社のホームページを検索。山万ユーカリが丘線は1周約14分。運行距離は約5km、建設距離は約4kmとある。ということは、ユーカリが丘駅から地区センター駅ー公園駅までの棒部分が約1kmで、公園駅から女子大駅ー中学校駅ー井野駅を通して再び公園駅に戻ってくるアメ部分が約3km。ちょっと頑張れば、全線歩いて制覇できる。

公園駅から時計回り。軌道沿いを電車の進路とは逆方向に歩いてみる。軌道の左側、アメの外側は家並みが続いているようだ。アメの内側部分は軌道近くこそ造成された住宅地になっているものの、少し深くに入ると公園や広々とした緑地、畑、さらには人の手が入っていないような雑木林が広がっている。住宅が途切れたところにはこんもりと木が生い茂る丘があり、ふもとには「八社大神入

山万ユーカリが丘線

【やままんユーカリがおかせん】

ニュータウン「ユーカリが丘」の開発とあわせて運行を開始した新交通システム。終着駅・ユーカリが丘駅で京成電鉄本線に連絡し、ニュータウン住民の移動を支える。



ユーカリが丘駅周辺は、子どもの頃に想像した「近未来の街」に近い光景。



緑地や雑木林を囲むように電車が走る。



公園駅。駅前には公園がある。この先、路線は円を描く。電車は右方向に進み、左から戻ってくる。



口」の石柱。入ってみれば、小さいながらも歴史のありそうな神社が鎮座している。公園が多いことは地図で確認していたけれど、「ニュータウン」と呼ばれる場所に、畑や雑木林、古くからある神社が残っているとは思わなかった。

アメ部分はまるで箱庭

軌道の内側外側を行ったり来たりしながら歩くうちに、いつの間にか井野駅を通過していたようで、中学校駅に到着。中学校駅の近くには中学校がある。公園駅といい、中学校駅といい、何とも潔いネーミング。

中学校駅を出ると軌道は次第に高架になっていき、女子大駅まで大きな弧を描いて延びていく。軌道の下や孤の内側には緑地や畑、空き地や雑木林が混在した場所が広がる。どこから内側に入れるらしく、散策している人影もある。内側に入る道を探しつつ女子大駅を通過。ちなみに、女子大駅の近くには女子大ではなく小学校がある。「小学校駅」の方がいいんじゃないかと思うけれど、きっと何か由来があつて、愛着もあるんだろう。

女子大駅を通り過ぎたすぐ近くに、内側に入る道路を発見。内側は、上から見ていた以上に雑草が勢いよく生い茂る。しかし、上空には遮るものがなくて開放感がある。高架上を電車が右から左へ走って行くのがぐるりと見渡せて、ちょっとした箱庭のよう。

散策している人を見かけた方へ、雑木林沿いの細い道に入っていくと、池が広がり、遊歩道も整備された緑地と住宅地につながる。

見たような景色…と思ったら、八社大神入口の石柱を発見。それほど歩くこともなく、女子大駅から中学校駅までの横断終了。アメの大きさは、想像より小さかったらしい。

目指せ全線徒歩制覇

戻ってきた中学校駅から、今度はアメの外側に向かって足を伸ばす。外側は軌道から離れても住宅地が途切れない。とはいえ、同じような家が機械的に連なっているわけではない。たくさんのお花々に彩られた家もあれば、落ち葉一枚落ちていない家や、はっと目を引くデザインの家もある。外観に住む人の個性が見えて面白い。家々の築年数はマチマチで、ポツリポツリと更地もあるし、何軒分かをまとめて建築中の一区画や「住宅用地」の看板が立てられた広々とした空き地もある。

公園や大雨に備えた調整池が整えられている一方で、木に呑み込まれたような小さな社や、国指定史跡のある雑木林がそのまま残されてもいる。新旧入り混じって変化し続ける街こそが、「ニュータウン」なのかもしれない。

足の向くまま歩いて行くと、視線の先に商業ビルや高層マンションが見えてきた。中学校駅からアメの外側を左回りに大きく回って、ユーカーが丘駅付近に戻ってきたらしい。これで全線歩き通した!? と思って気付く。女子大駅からアメ部分を横断して中学校駅側に抜けてきたため、女子大駅ー公園駅間は歩いていない。目指せ全線徒歩制覇！でも、ひとまず公園駅までは電車で戻ろう。



街はまだ成長過程。



中学校駅ー井野駅付近では、電車は住宅より下を走る。



アメ部分の内側には、緑地や古い神社も。